

書籍紹介

中原，朝子
神戸大学男女共同参画推進室：特命助教

保坂，雅子
東北大学男女共同参画推進センター：助教

<https://hdl.handle.net/2324/7358017>

出版情報：ポリモルフィア. 1, pp.132-140, 2016-03-31. Office for the Promotion of Gender Equality, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



書籍紹介

Polymorphia
Poly

polymor
morph

『下層化する女性たち 労働と家庭からの排除と貧困』

小杉礼子・宮本みち子編著

勁草書房 2015 年

中原朝子

神戸大学男女共同参画推進室 特命助教

近年、女性の貧困は、新聞や書籍でもその文字を目にする機会が多くなり、それと共に女性の貧困は解決すべき社会的課題として、人々に認識されてきたように思える。しかし、女性の貧困に対する男性の反応¹⁾、未だにフリーター定義から有配偶女性が排除されていること、第3次男女共同参画基本計画で掲げられていた、「子どもの貧困率や母子世帯等ひとり親世帯の貧困率について、継続的に算出し、その状況を把握する」が、第4次基本計画で言及されていない点等を踏まえると、女性の貧困は、容易に不可視化される危険性があるように思える。本書は、若年女性の社会的排除と貧困をテーマに開催したシンポジウム²⁾で、社会学者、哲学者、民間団体の社会活動家がそれぞれの立場から現状分析を行い求められる支援について議論された内容を基に発行された。

本書は、不可視化されやすい女性の社会的排除や貧困を真正面からテーマにとりあげ、女性は男性と同じように（いくつかの側面では男性以上に）社会的排除や貧困が深刻化しているという事実を

統計データおよび聞き取り調査等の結果から明らかにした上で、なぜ女性の社会的排除や貧困がこれまで不可視化されてきたのか、今日どのような様相で女性の社会的排除や貧困が進んでいるのか、そして求められる支援とは何かについて、ジェンダーの視点から論じている。

構成は以下の通りである。

はじめに 宮本みち子

「序章 課題の設定」宮本みち子

第Ⅰ部 労働と家庭からの排除の現状と課題

「第1章 女性労働の家族依存モデルの限界」

山田昌弘

「第2章 見えにくい女性の貧困-非正規問題とジェンダー」江原由美子

「第3章 ままならない女性・身体一働くのが怖い、産むのが怖い、その内面へ」金井淑子

「コラム1 中高年女性が貧困に陥るプロセス」

直井道子

第Ⅱ部 貧困・下層化する女性

「第4章 女性ホームレスの問題から一女性の

貧困問題の構造」丸山里美

「第5章 折り重なる困難からー若年女性のホームレス化と貧困」山口恵子

「コラム2 戦後日本型循環モデルの破綻と若年女性」本田由紀

第Ⅲ部 支援の現場から

「第6章 『『よりそいホットライン』の活動を通じてー若年女性の『下層化』と性暴力被害」遠藤智子

「第7章 生活困窮状態の10代女性の現状と必要な包括支援ーパーソナルサポートの現場から」白水崇真子

「第8章 横浜市男女共同参画センターの“ガールズ”支援ー生きづらさ、そして希望をわかちあう『場づくり』」小園弥生

「コラム3 若年女性に広がる学歴間格差ー働き方、賃金、生活意識」小杉礼子

おわりに 小杉礼子

1. なぜ女性の社会的排除や貧困がこれまで不可視化されてきたのか

第1章では「女性労働の家族依存モデル」、コラム2では「戦後日本型循環モデル」と命名されているが、両モデルとも戦後日本社会において、女性の労働が常に家族内の男性の経済的庇護を受けることを前提として設計されており、モデルが機能した時期もあったが、1990年代の経済構造の転換に伴い機能しなくなっている。それにもかかわらずこのモデルが現在も人々の意識を強く規定していることが、女性の貧困の不可視化を招いていると指摘している。第2章では、若年女性の貧困化を社会問題化できなかった理由について、「ク

レーム申し立て」という社会学の枠組みを用いて検討されている。「女性の経済的自立モデル」から「クレーム申し立て」をする場合、女性の経済的自立は現実には難しいという現状認識が、女性の経済的自立をめざす応援のために抑制されがちになることや、経済的に自立できない働き方である非正規雇用のあり方への批判が、経済的に自立できない非正規雇用女性への否定的評価へのずらしを呼びよせがちになることが、「クレーム申し立て」が有効に行われなかった理由としてあげられている。

上記に加え、世帯内では所得が平等に配分されることを前提にして貧困率が算出されていること(第4章)、女性は家事手伝いという統計になってしまい貧困が顕在化しないこと(第8章)といった統計指標のジェンダーバイアスが、貧困の不可視化を招いていることも指摘されている。

2. どのような様相で女性の社会的排除や貧困が進んでいるのか

第1章では、若年女性の包摂先である「労働」「夫」「親」の全ての条件に恵まれる者と全ての条件に恵まれない女性との間の格差の拡大と世代連鎖、第3章では、経済活性化政策の中で、労働の場において女性を上方へ押し上げる追い風が吹いているが、女性全体に対しての追い風ではないため、女性間の格差が拡大していること、コラム3では、学歴を媒介にして女性の中の賃金、失業率、日常生活の充実感などの違いが大きくなっていることが指摘されている。第6章から第8章の支援の現場からは、貧困の様相は男女で異なり、特に女性は、女性の身体が性の商品化や暴力・搾取の対象とされやすいこと、そ

してそのことが女性の孤立化や心身の不調を招いている。また、子どもの頃から家庭内暴力の被害にあっている者は生活を支える安心・安全な場所が物理的にも心理的にもないために、社会的排除に直面しているといったことが相談事例やケース集計に基づいて指摘されている。

このような状況は、果たして女性自身が選んだ結果なのだろうか。コラム1では周囲も本人も未来の夫への経済的依存期待があることが指摘されており、コラム3では主婦や主婦パートの方が正規雇用女性より日常生活の充実を感じている割合が高いことが示されている。一方第4章では女性のライフコース選択が運に左右されていること、第7章では、女性は経済的な自立へのプレッシャーが弱い一方で、家族のケアや家計補助的な働き方を要求されることが指摘されている。

3. 求められる支援

社会保障制度については、若者のニーズに対応した制度への転換(序章・第4章・第7章)や、労働、親の状況、配偶者候補の男性の状況を考慮にいれた制度設計(第1章)への見直し、子育て費用の社会負担(第4章)、高校教育を全うできるような支援の検討(コラム3)、雇用条件等労働に関する見直しとして、非正規雇用の労働条件の見直し(第2章)、最低賃金の引き上げ(第4章・第8章)、賃労働と家事・育児の両立が可能な働き方の実現(第4章・第7章)、家族(父や配偶者)に依存しなくても生活可能な収入が得られる就労機会(第7章)、同一価値労働同一賃金の実現(コラム1)、があげられている。

その他、あきらめや自己否定の感情をときほぐすための仲間との時間や場の提供(コラム2・第8章)、女性のエンパワーメントに資する新女性学の確立(第3章)、生活技術・基礎的な生活習慣を身につけるための支援(第4章)、女性の貧困の背景には性暴力被害があるという視点の共有化(第6章)などが指摘されている。

本書の目的は、工業化時代からポスト工業化の時代の半世紀の間に、日本の社会がどう変わり、そして女性の貧困化がそのことと深く結びついていることを確認し、社会政策の発動が必要であるという問題意識を共有することである。さまざまな視点からの問題提起とそれに対応する社会政策の提示により、本書の目的は十分に達成されていると言えよう。

最後に本書を読んだの、私見を述べておく。本書では、夫婦共働き世帯モデルが推奨されている(おわりに)が、筆者は、女性が世帯主になることが皮肉にも貧困を可視化させることにつながっていること(第4章)、貧困の世代間連鎖が懸念されること(第1章)をふまえ、一人親世帯モデルを推奨する。誰もが適性な時間(賃労働と家事・育児の両立が可能な労働時間)働けば、子どもと健康で文化的な生活を送ることができることを根底にして労働政策・教育政策等の制度設計を行うことである。そのためには、最低賃金の引き上げ、同一価値労働同一賃金の制度化、子どもの社会化に関する費用の社会負担が求められる。これから社会にでる若年層に向けては労働教育や基礎的な生活技術習得のための教育が求められよう。性暴力の被害の対象にならないためにも、女性が自立した

生活を送ることのできる経済的基盤の充実とそのための教育プログラムの実施、また未成年者でも家族から逃れたい人は、直接社会的支援につながるような制度設計も必要である。本書に刺激され、多様な視点から女性の貧困の解消に向けての意見が出されることが、不可視化を防ぎ、社会政策の発動へとつながる。この本を契機に、更に議論を深めていくのは、読者である我々に課せられた課題である。

- 1) 阿部彩(2012)は、「女性の貧困」問題のほどこ方で、2006年のデータでいくつかあるデータのの一つとして単身女性の貧困率を提示したところ、一部男性から「女の貧困なんて話している場合じゃないだろう」といった批判があったことに言及している。
阿部彩『『女性の貧困』問題のほどこ方』『現代思想特集：女性と貧困』Vol.40-15 青土社
- 2) 当日の記録は、「若年女性が直面する自立の危機－取り巻く環境と障壁」労働研究研修機構『ビジネス・レーバー・トレンド』2013年10月号、「アンダークラス化する若年女性Part2－支援の現場から」労働研究研修機構『ビジネス・レーバー・トレンド』2014年12月号に掲載されている。